



NICUで行われている患者参画型看護 ～Family Centered Careの実践～

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡県母性衛生学会 公開日: 2022-12-14 キーワード (Ja): 家族看護, 参画型看護, 新生児 キーワード (En): participatory nursing care, neonate, family centered care 作成者: 鎌江, 美晴, 川村, 理美, 村田, 麻世, 藤田, 亜希, 平野, 佐由利, 瀧下, 菜穂, 三浦, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004233

NICU で行われている患者参画型看護 ～Family Centered Care の実践～

Patient participation type nursing in NICU: Practice of family centered care

鎌江 美晴 川村 理美 村田 麻世 藤田 亜希
Miharu KAMAE Satomi KAWAMURA Mayo MURATA Aki FUJITA
平野 佐由利 瀧下 菜穂 三浦 直子
Sayuri HIRANO Naho TAKISHITA Naoko MIURA

浜松医療センター 周産期センター

Perinatal Center, Hamamatsu Medical Center

【要 旨】

近年、虐待事例が増加し、厚生労働省によると死亡事例の児童の年齢は0歳児が最も多い。この背景には親子の愛着形成の構築が不十分な可能性が存在する。NICUへ入院する患児とその家族は、危機的な状態にある可能性を有する。この問題を解消する一方策としFamily Centered Care (FCC) が提唱されている。本概念にのっとり、当院では、家族との交換ノート、患者参画型看護、兄弟面会、そして、育児時間の活用の取り組みを行った。この取り組みにより以下の結果が得られた。①交換ノートの活用により、両親の児に対する思いや抱えている感情を多く聴取することができた。②患者参画型看護計画を実行することで両親における児の病状への理解は深まった。③兄弟面会をすることにより、兄弟から児と一緒に暮らすことを楽しみにしている言葉が得られた。④育児時間を設けることで児の生活リズムを知り、育児に対する疑問・不安を解消し、自信につながる効果が得られた。これらの取り組みは、自らの力で自分の家族を建て直し、発展させていくための体験づくりとして効果的であったと思われる。

【ABSTRACT】

The number of child abuse cases has been increasing in recent years. According to data from the Ministry of Health, Labour and Welfare, the incidence of deaths caused by abuse is highest in infants in the first year of life. Insufficient development of parent-child bonding may be an important factor that contributes to this problem. Children admitted to NICU and their families are often at the high risk of abuse. Family-centered care (FCC) has been proposed as one of the strategies for addressing this issue. Utilizing the concept of FCC, our hospital made collaborative efforts in carrying out and encouraging such activities as exchanging journals with the families, patient participatory nursing care, visitation by siblings, and utilization of child care time. Our activities yielded the following outcomes. (1) Through exchanging journals with parents, we came to know their inner feelings and emotions towards their children. (2) The patient participatory nursing care plan enhanced parents' understanding of their children's medical conditions. (3) Sibling visitation allowed the siblings to express that they were looking forward to once again living with their brothers/sisters who are currently staying in the hospital. (4) Utilization of child care time allowed the parents to understand the daily rhythm of their children and reduced their doubts and worries concerning child rearing, which consequently helped them acquire self-confidence. These

activities are believed to have effectively provided

【キーワード】

家族看護, 参画型看護, 新生児, participatory nursing care, neonate, family centered care

【はじめに】

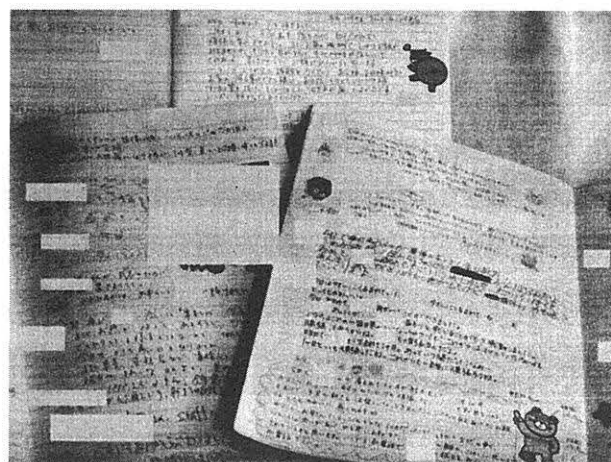
近年、虐待事例が増加しており、厚生労働省によると、虐待による死亡事例の児童年齢は0歳児が最も多いとされている¹⁾。この背景には親子の愛着形成の構築が不十分な可能性が存在する。通常、親子の愛着形成は、出産直後より、親が子どもに触れ、語りかけ、それに対する子どもの反応を親が読み取り、親と子の相互作用で構築されていくが、NICUではこの親子の愛着形成が構築される大切な時期に母子分離状態となる。そのため、親は自分の子どもという実感がわきにくく、愛着形成を妨げられ、愛情を感じられなくなってしまうことがあり、これが虐待の原因となり得る。このため、NICUへ入院する患児とその家族は、危機的な状態にある可能性を有する。

当院では、患者参画型看護を「患者さんが自分らしくあるために、どのように生きていくかを自己決定出来るように支援すること」と定義している。NICUにおいては、患者は新生児であり、自己決定することは出来ないため、参画型看護の実践においては患者家族が重要となる。Family Centered Care (以下、FCC と略す)の基本概念は、両親がNICUに入院した子どもを含めて、自分の家族を自らの力で建て直し、発展させていくことが出来るよう、愛情を持って活動することとされている²⁾。

当院のNICUでは、これまでにFCCの実践としていくつかの取り組みを行ってきた。それらが患者・家族の力をどのように引き出すことにつながっているのか、そして、患者・家族の権利が何であるかについて検討した。

【対象・方法】

対象は、36 週未満の早産児（出生時体重 400g ～ 2000g）、長期入院治療を要する疾病新生児（外科的



(図1) 交換ノート

家族と医療者が自由記載する

(一部内容)

- ① ○○おはよう。今日は○時に会いにきたよ・・・○が産まれてきて、わたしたちに教えようとしてくれることがあると思います・・・
- ② 今日で○○が産まれて○ヶ月です・・・毎日○○にあえてとっても嬉しいです・・・脳死とは・・・どうのこと・・・○○は、・・・
- ③ あんなに小さかったのに、もうこんなにおおきくなったね・・・退院の日が近づいてきている確認しておきたいことがあります・・・

疾患など) である。FCC 導入以降、以下の対策を実践してきた。なお、今回の検討においては、個人が同定されないよう配慮した。

1) 交換ノートの活用 (患者家族と看護サイド)

交換ノート (図1) の目的は患者家族の気持ちを知ることであり、長期入院が必要となる患者家族に対し入院時に交換ノートの目的を説明し、希望があれば交換ノートを開始した。ノートへは、児の体重などの計測値や、ミルクの量、その日の様子を受け持ち看護師が記入する。両親からは児への思い、看

護師への要望などを記載する。

2) 家族の治療への参加

FCC 導入以前は、新生児への処置の際、家族はNICUより退室し、処置が終わるのを待っていた。これは、処置で啼泣するわが子を目の前にする親の気持ちに対する医療者の配慮であった。しかし、現在は家族にも参加していただいている。

具体的な一例をあげると、長期にわたる人工呼吸器管理からの離脱を両親の立会いのもとで行い、離脱後の鎮静や呼吸リハビリを医療者と一緒に実施した。なお、これにあたっては、両親の思いを伺い、安全に参加することができる様、事前に看護計画を立案し実施している。

3) 兄弟面会のセッティング

NICU では、面会において様々な制限が設けられている。兄弟面会もそのひとつである。しかし、FCC 導入にあたり、兄弟面会についての検討を重ね、長期入院やターミナルにある児を中心に、家族の希望に合わせて面会を行っている。この際、家族の希望に近づける方法がとれるよう、プライマリーを中心としたカンファレンスを行い、場所や方法を検討し実施している。

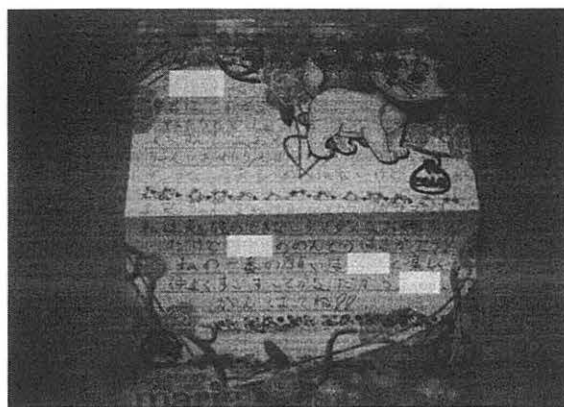
4) 育児時間の活用

午前中（家族が面会できる8時30分から10時の間）から面会時間終了（20時）までの間を育児時間としているが、この時間を利用して、親が沐浴・授乳・鼻掃除・爪切りなどの育児を行うなかで、児の反応を親が読み取り、児にあった授乳のタイミング等を習得する。長期入院の児や初産婦で育児に自信をもつことができない親に対し、退院にむけての準備として、家族が主体的に育児に取り組める環境を提供することを目標とするものである。

【結果】

平成21年4月から平成22年3月までの1年間における成績は以下のとおりである。

1) 交換ノートは、入院患者424名中14家族（3%）で実施した。これを活用することにより、突然の入



（図2）兄弟からの手紙

一部内容

〇〇へ

君は、わたしたちと一緒に暮らすんだよ……

わたしの一番の願いは、〇〇と楽しく仲良くすごすこと……がんばってね。

院に対する戸惑い、児の疾患に対する葛藤、妊娠中に自分がしたことを責める母親の気持ちなど、両親の児に対する思いや抱えている感情を多く聴取することができた。

2) 患者参画型看護は、入院患者424名中1家族のみの実施であった。患者参画型看護計画を実行することで両親における児の病状への理解が深まった。

3) 兄弟面会は、入院患者424名中2家族で実施した。面会後の兄弟からの手紙（図2）には、一緒に暮らすことを楽しみにしている内容が書かれていた。兄弟面会については、未だ制約があり、今後も環境・システムの構築が必要であることが分かった。

4) 育児時間の活用は、入院患者424名中11家族（2.5%）が実施した。育児時間を設けることで児の生活リズムを知り、育児に対する疑問・不安を解消し、自信につながる効果が得られた（表1）。

【考察】

親子の愛着形成においては、赤ちゃんとの接触、そして、周囲の人たちのサポートが重要といえる。しかし、NICUでのケア、特に長期入院となる児に

表1 育児時間での親の言葉

- ・ 長い時間一緒にいて分かることがたくさんあってよかった
- ・ これが〇〇ちゃんのペースだね
- ・ 一緒にいて楽しかった
- ・ 疲れたけど、(子育ては)こういうものですね
- ・ 何とかかなりそうかな
- ・ 流れが分かってよかった
- ・ 泣いたのでおっぱいします

については、親子の愛着構成時期に母子分離状態となるため、愛着形成に支障をきたす危険性を有している。この問題を解消する一方策としてFCCが提唱されている²⁾。本概念は、自分の家族を自らの力で建て直し、発展させていくことが出来るよう、愛情を持って活動することを推奨するものである。その概念にのっとり、当院では、家族との交換ノート、患者参画型看護、兄弟面会、そして、育児時間の活用の取り組みを行った。

医療現場においては、患者家族の気持ちや考えを知る機会が限られている。特に、長期入院に及ぶ場合には、患者家族の心情はその都度変化するとともに、複雑になってくる。交換ノートの目的は、医療従事者と家族との相互の連携を構築するものである。今回は、主に長期入院が予想される症例を対象に交換ノートを施行したが、家族が交換ノートに自由に記述できることにより、児に対して望むこと、児に対してしてあげたいこと、医療者への要望などこころの奥に閉まっていた思いを表出しやすくなり愛着形成を促進することやケアへの参加に役立てることができた。一方、医療者もノートを介して家族の不安を共有し、児の成長に関する喜びを分かち合うことにより、患者家族との関係構築につながった。“看護者の倫理綱領”に「看護者は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する」と記されているが³⁾、交換ノートの活用は患者家族と医療者の関係作りの基盤となり有効であった。交換ノートは、患者・家族と医療者の

相互理解を深め、NICUに入院している患者をもつ親自身の居場所の確立に重要な意味を持つといえる。

“看護者の倫理綱領”条文4³⁾に記されているように、本来、人々は自己の健康状態や治療について知る権利、そして、十分な情報を得た上で医療や看護を選択する権利を持っている。しかし、NICUにおいては、患者は新生児であるため、この権利は家族(両親)が有することになる。1993年Harrisonによって提唱されたFCCはこの点を考慮したものであり、新生児医療におけるFCC9ケ条の一項目に「両親と専門家は一緒に作業を進めるべきである」とある⁴⁾。すなわち、医療者が病状説明を重ね、その上で患児の治療や処置に対する家族の参加への希望を聞きながら、家族と医療者が一緒になって患者参画型の看護を実施することが望ましいといえる。今回、患者参画型医療は僅か1家族に提供されたに過ぎなかったが、医療者ではない家族が治療へ参加することにより、児に安らぎをあたえたり、家族の病状理解が深まったり、さらに児の頑張りをみることで親として成長することができるといった印象を得た。このような家族の治療への参加を通して、真の意味でのインフォームドコンセントが成立するのではないかと考える。

“看護者の倫理綱領”の条文1に「看護者は人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する」と記されているように³⁾、本来、生まれた児は家族と一緒にいる権利を有している。しかし、NICUにおいては感染防御などの観点から様々な制限が設けられているのも事実である。従来より、当院では面会は両親と祖父母に限ってきたが、平成21年度より、長期入院やターミナルにある児に対して、家族を中心に兄弟面会も行っている。今回、2組の家族に対し兄弟面会を実施したが、患児に対する思いやりを示すなど、その効果は期待以上のものであった。家族の一員としての受入をすすめるためにも、兄弟面会についても検討を重ねていく必要があると思われる。

家族発達理論では、出産・育児においては家族内での役割獲得が必要となる。うまく獲得できないと

親子の絆は脆弱になり、家族形成におけるリスクを生じ、さらに、子供が疾患や障害を抱えている場合は二重のリスクとなる⁵⁾。その意味合いからもNICUにおいては、退院に向かう過程で十分なサポートが必要といえる。当院では、児が保育器を出て退院が近づく頃になると、沐浴や直接母乳などの育児指導を積極的に行うとともに、長期入院の児や初産婦で育児に自信がもつことができない親を対象に育児時間を設け、家族が主体的に育児に取り組める環境を提供している。今回、11家族を対象に育児時間の提供を行ったが、家族からも評価を受けるとともに、退院後の発育も順調であることが示された。退院に向かう最終段階のサポートとして、育児時間の提供は効果的な役割を果たすものといえる。

【結語】

NICU の環境から受ける母親への影響として「恐怖・親としての能力の遅れ・部外者のような気持ち」などがあげられている⁶⁾。このような危機的な分離を出発とした家族が、自らの力で自分の家族を建て直し、発展させていくための体験づくりとして FCC の取り組みは効果的であったと考える。

【文献】

1. 厚生労働省. 児童虐待相談対応件数等及び児童虐待等要保護事例の検証結果「子ども虐待による死亡事例等の検証結果」. 2011, 4. 23.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000g6nl.html>
2. 堀内勁編. NICU チームで取り組むファミリーケア 家族のはじまりを支える医療. Neonatal Care 春季増刊号. 2002, 191, 10-26.
3. 日本看護協会. 看護者の倫理綱領. 2003, 3. 21.
<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html>
4. Harrison H. The principles for family centered neonatal care. Pediatrics. 92(5), 1993, 643.
5. 荒木淳子, 岡園代. 親役割獲得への不安. Neonatal Care. 2010 2, 30-37.

6. 第1回NIDCAP 認定コーステキスト
Introductory Lecture and Workshop ディベ
ロップメンタルケア(DC)研究所. 2010.